

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473200283
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	樹林の風
訪問調査日	平成25年12月26日
評価確定日	平成26年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200283	事業の開始年月日	平成9年10月28日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	樹林の風			
所在地	(〒241-0806)			
	横浜市旭区下川井町218-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://.shuhokai.or.jp
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から16年、日々、地域の方々のご理解とご支援を頂きながら、職員一人ひとりが伝統を継承する意識を持ち、日々の活動に励んでいる。緑豊かで家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々が毎日生き生きと生活出来るよう、入居者本位のサービスを提供出来るよう心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成25年12月26日	評価機関 評価決定日	平成26年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営は、社会福祉法人秀峰会です。この法人は8か所のグループホームを運営しており、このホームは法人として最初に開設したグループホームです。このホームは、相鉄線二俣川駅からのバスの便も良く、ご家族が訪問しやすい地理にあり、佇まいは1ユニット1戸建てであり、こじんまりとしていて付近の住宅と馴染み、違和感が全くありません。近くには、法人発祥の地であり、所在地になっている特養さくら苑があります。②理念は、「人間が主体」「連帯」「日に日に新た」であり、事務コーナーの目立つところに掲示し、職員の名札に入れていきます。そして、思い遣りのこもったマナーで最高のサービスを提供する為に、職員の行動規範が作成され、法人のテーマ、理念と共に羅針盤としてまとめられています。羅針盤は、全職員が携帯し、朝礼では、毎日記載項目別に順次唱和しています。会議では項目の具体化について話し合い、近隣や地域との日々の関わりを大切に、入居者の生活により「良き幅」が生まれる様に努めています。③地域とは良い関係が築かれています。町内会に加入し、清掃運動、盆踊り、敬老会など各行事に参加しています。ホームでのバーベキューは年々参加人数も増え、地域の恒例行事となり、今年は80人ほどの来場者になりました。隣の奥さんが庭に花の種を蒔いたり、庭の手入れを手伝って頂いています。④ケアについては、入居時、医師の情報提供票とご家族の協力を得て、基本情報と暮らしの情報をアセスメントシートに記入し、これまでの人生の経過、思いや希望についての把握をしています。そして、ホームにおける日々の支援の中で、心身の情報、「私の気持ち」を観察・聞き取りで把握し、更に、本人の能力・生活リズム・24時間心の変化・支援者の関わり方をタイミング良く、丁寧に、個人記録シートに記録しています。この個人記録は、本人からふと漏れる言葉・家族の発言・支援者が気付いたこと・ケアのヒントを記録するものであり、支援の拠りどころにしています。介護計画は、個人記録を基に、カンファレンスで職員の意見を取り入れ、家族、医師、看護師他、関係者の意見を聴いて作成しているため、その人に相応しく安心して生活出来る支援が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	樹林の風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「連帯の輪を無限に広げていく」という理念のもと、日々、近隣の方々や地域との関わりを大切にされた援助を心掛け実践している。	理念は、「人間が主体」「連帯」「日に日に新た」であり、事務コーナーの目立つところに掲示し、職員の名札に入れています。そして、思い遣りのこもったマナーで最高のサービスを提供するために、職員の行動規範が作成され、法人のテーマ、理念と共に羅針盤としてまとめられています。羅針盤は、全職員が携帯し、朝礼では、毎日記載項目別に順次唱和しています。会議では項目の具体化について話し合い、近隣や地域との日々の関わりを大切に、入居者の生活により「良き幅」が生まれる様に努め、職員の得意分野を仕事に活かしてもらうよう回り、園芸の得意な人、料理が得意な人、それぞれ責任と権限を与え、頑張っています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の定期清掃活動や季節ごとにお誘い頂く行事にご利用者と共に参加するなど日常的に交流がある。	地域とは良い関係が築かれています。町内会に加入し、清掃運動、盆踊り、敬老会など各行事に参加しています。毎年の行事となっているホームでのバーベキューは年々参加人数も増え、地域の恒例行事となり、今年は80人ほどの来場者になりました。隣の奥さんが庭に花の種を蒔いたり、庭の手入れを手伝って頂いています。法人として障害者の雇用の動きがあり、三ツ境の養護学校の生徒の職業体験実習を受入れ、引き続き、その生徒を職員に採用し、優しい人柄で利用者、他の職員等皆に好かれています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、施設の夏祭りに近隣の方々をお招きした際、推進委員会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容を報告した際にアドバイス頂いた内容を他の職員と共有、検討のもと改善を行ったり、催し物のお誘いを頂く時には積極的に参加サービスの質の向上に繋げている。	メンバーは地域代表2名（民生委員、近隣の人）、地域包括支援センターの方、旭区のケースワーカー、ご家族、ご利用者それにホーム関係者で奇数月第2金曜日に実施している。運営推進会議ではボランティアの受け入れ、日々の活動交流等、写真を見て頂きながら状況把握が頂ける様にお伝えしている。又、ご意見・アドバイス等を頂いた際は、スタッフに周知徹底し、日々の生活に活かしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区内のGH連絡会に出席したり、近隣の地域包括支援センターの主任ケアマネージャーを通じて近隣居宅事業所の新任ケアマネージャーの見学の受入を行っている。	旭区は福祉に熱心であり、協力体制にあります。運営推進会議でも、日頃の状況は伝えていますが、グループホームへ関心興味のある方、入居希望の方など、いつでもご見学頂ける様お伝えしています。横浜市グループホーム連絡会の旭・瀬谷部会にも参加し、行政との交流もしています。今年、地域包括支援センターの主任ケアマネージャーを通じて居宅事業所の新任ケアマネージャーの見学の受入を行いました。此処の担当ケアプラザは光が丘ですが、近くの川井ケアプラザは同じ法人の経営でもあるため、催物がある時は声を掛けてもらい参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内グループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、周知徹底しながら、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束への理解は、横浜市の指針、法人のマニュアル等により、実施する事業所内研修で習得し、身体拘束をしないケアを実践しています。身体拘束に関する各種マニュアルの充実にも全職員で取り組んでいます。止むを得ず、身体拘束を行う場合には、記録するフォーマットは用意しています。帰宅願望があり、外に出ようとされる方は職員と一緒に出る等し、玄関の施錠はしていません。言葉遣いについては、職員同士、注意し合うようにしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のグループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、虐待防止の周知徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、必要性を理解していると共に内容を他の職員にも伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはきちんと説明を行ない、行き違いの無い様努め、その都度ご理解頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げています。ご家族との関係は良好であり、ご意見等は来訪時にお聞きし、業務に反映するように努めています。面会の際は変化が無くとも最近の様子を伝えるようにしています。利用者については、何かしたい等の意見があれば、個人記録に赤字で書き残しておき、検討して要望に対応しています。家族の集いは夏祭り、X'masの年2回実施しています。今年、意見箱を玄関近くのコーナーに設置しました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や申し送り時、毎月の定例会議で各職員の意見を募り、業務の改善、ご利用者の処遇の向上に繋げている。	日々の申し送り時は勿論とし、毎月定例会議を行なう中で意見を出し、常に改善に努めています。正規職員については今年、新人事制度が設定され、上期、下期について目標設定とその評価を行なっています。準職員については、従来の目標管理制度で処遇に反映しています。その他職員については、年度更新時に面接を実施しています。キャリアパスについては資格挑戦を後援しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の立場や経験に応じた勤務状況、実績を把握した上で各自がやりがいや向上心が持てるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や意向、習熟度を踏まえた上で、研修に参加して頂き、学んだ事を日々のOJTで生かせるよう援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	秀峰会グループホーム8事業所13ユニットあり。月一回の頻度で各ユニットより1名以上参加する形で業務に付随した研修があり出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご本人が困っていること、不安な事、求めている事等をご本人自身からよく聞く機会をつくるなど関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用に至るまで多くの不安を持たれる事は往々にあるため、ご家族の皆様が納得して頂けるように、見学やお話しをする機会を随時持ち、不安や求めている事を良く伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のニーズを良く伺い、医療の必要性も考慮した上で、他のサービスの利用も含めて入居の妥当性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に同じ居で生活するという視点を持ち、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら接し、日々の暮らしを充実した物に出来る様、支えあう関係を築ける様、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやクリスマス会等の行事の際に参加して頂いたり、受診の付き添い・外出・居室内の衣類の衣替えなど可能な限りご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた個々の生活習慣を尊重し馴染みの場所や家族以外の知人とも疎遠にならない様行事へのお誘いや面会の機会を提供頂ける様働き掛けている。	これまで培って来た個々の生活習慣を尊重し、馴染みの場所や、ご家族以外にも親交があった方々とも疎遠にならない様、バーベキューへのお誘いや面会の機会を提供できるよう働き掛けています。地域の在宅時に、親交のあった友人が訪ねて来られる方もあり、当時の様子を話題に談笑されています。地域の方も多く、このホームにも定着し、安心した生活が送れています。利用者は此処を第2の自宅として近所との関係も良好に暮らしています。この近辺でも高齢化は進行しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日々の生活状況、性格などを考慮した上で相互に交流が図れるよう、日々コーディネートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族からの相談や情報提供に努めている。退去しても遊びに来る方がいたり、その後どうしていらっしゃるか、こちらから転出先を訪問する時もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を出来る限り生活の中に取り入れる事の出来る様コミュニケーションをはかり、コーディネートに努めている。	利用者の意見、要望については、入居時、医師の情報提供票とご家族の協力を得て、基本情報と暮らしの情報をアセスメントシートに記入し、これまでの人生の経過、思いや希望についての把握をしています。そして、ホームにおける日々の支援の中で、心身の情報、私の気持ちを観察・聞き取りで把握し、更に、本人の能力・生活リズム・24時間心の変化・支援者の関わり方をタイミング良く丁寧に個人記録シートに記録し、この個人記録は、本人からふと漏れる言葉・家族の発言・支援者が気付いたこと・ケアのヒントを記録するものであり、支援の拠りどころにしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴、サービス利用状況の把握に努め、それらの情報を日常のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の方々の日々の状態把握に努め、変化を見落とさないよう、随時又は申し送り等で職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人始め、ご家族関係者から聞き取った内容をもとにアセスメントを策定し、具体的な介護計画ができる様努めている。	入居時は、アセスメント結果を基に暫定介護計画を作り、日々の支援をしながら、1ヶ月程度以内にホームでの本人の思いや意向、生活状態を把握しています。この記録に基づき、経過を観察して、随時に見直しをしながら定常の介護計画に整えています。介護計画は、計画作成者が原案を作り、カンファレンスで職員の意見を取り入れて、最終的に家族、医師、看護師他関係者の意見を聴いて作成しています。毎月のカンファレンスで利用者全員（9名）について、各職員から意見を聴き、変更の必要があれば随時見直すようにしていますが、標準的には、利用者全員の介護計画を3ヶ月に1度、見直しをすることになっています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動内容、気付きや様子など個人記録に記録し、それらを落とさないよう、申し送り等で情報共有としている。又それを踏まえ介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人は勿論の事、ご家族のニーズに対し出来る限り対応して行く様努めている。（買い物・外食、レクリエーション時など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の方々との継続的な繋がりを持てるようコーディネートしている。（地域のお祭りや消防訓練など、近所の方を通じた交流がさかんにある。）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し納得の得られた主治医と連帯が取れる様にしている。希望がある場合には、主治医となって頂ける医療機関を紹介している。	医療連携体制では隣の御殿山クリニックと連携し、看護師もその看護師と契約し、24時間体制で実施しています。本人、ご家族の意向を尊重し、納得を頂きながら主治医と連帯が取れるように努め、希望がある場合には、主治医と慣れるよう、往診医を紹介しています。今は全員往診医が主治医です。往診医は2週間に1回往診に来てくれる他、隣りなので通院も併用しています。看護師は毎週訪問で24時間対応体制となっています。訪問歯科、マッサージも利用しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護担当者または訪問診療担当看護師にその都度、個々のご利用者の状況を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、早期に退院が可能か否か、ご家族と共に病院を訪問し、必要な情報を収集した上で病院関係者（看護師・担当医・ソーシャルワーカー等）と退院に向けたケアの内容を協議するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方を確認している。その後、そのような状況が生じる場合、ご本人はじめ家族の意向を踏まえた上で、施設として出来る事を提案し、介護の継続にあたっては、本人を取り巻く関係者全員がその内容を共有出来る様、コーディネートしている。	ホームとして、看取りの受け入れ体制は出来ています。入居の際、重度化した場合や終末期のあり方を確認し、その後、そのような状況が生じる場合、ご本人はじめ家族の意向を踏まえた上で、施設として出来る事を提案しています。介護の継続にあたっては、本人を取り巻く関係者全員がその内容を共有出来るようにしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況、状態に応じた迅速な対応が可能な様、定期的なシュミレーションを行うと共に、全職員に内容を周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練の際には消防署の指導を仰ぎ、実施している。又、近隣のお宅には火災や災害時に協力を頂ける様、地域推進会議等で働きかけを行い了解を頂いている。	消防署の指導の元、昼夜火災時の避難訓練を4回/年実施しています。上期2回実施し、下期2回実施することとしています。近隣のお宅に火災時の協力を頂けるように日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、運営推進会議等で働き掛けを行ない、了解頂く等、協力体制を築いています。この他、ホームのみのミニ避難訓練を1回/月実施することを検討していて、これまでに、重度の方の避難方法の仮想訓練を実施しました。備蓄は外の倉庫に3日分準備があります。スプリンクラー、自動火災通報装置、AED、物品（ランタン、ラジオ、ポリタンク等）は設置済みです。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格、プライバシーについて、尊厳を保つ行動が出来るか振り返る機会を研修等で確保する機会を持ち日々のケアの中に役立てている。	ご利用者一人ひとりの人格、プライバシーについて、尊厳を保つ行動が出来るように、職員は、日々努めています。また、法人内で①法令遵守②グループホームにおける法令遵守③利用者の権利④虐待の防止⑤身体拘束と安全管理⑥プライバシーと個人情報の保護についての研修をしています。研修出席者がホームに持ち帰り、全職員に勉強会をして共有を図っています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方でも、個々の状態に応じて、表出出来る様な働きかけを行い、それが最大限可能な様にコーディネートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々の方に合った臨機応変な対応を心がけ、傾聴しながら、自己実現が図れる様な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を尊重した支援を心掛けている。意向を持たれる方には家族に何らかの協力を依頼するなどし、実現できるよう対処している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても好みや出来る事を重視したコーディネートを行い、個々の残存能力に応じた働き掛けを心掛けている。	食事は、今年から食材配達業者からメニュー付きで受け入れるようにしました。花見、誕生会、バーベキュー、クリスマスなどの行事の時は食材の配達を中止しています。食事に関わる各場面においても「出来る事」を重視したコーディネートを行ない、個々の残存能力に応じた働き掛けに配慮しています。職員が事前に検食し、報告書を書いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価を考慮したメニューをもとに、個々のご利用者の状態に合わせた調理を行ったり、個々の方の嗜好や摂取量を確認の上、必要な対応や配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが出来る様、声掛け、見守りを行い、必要な方には職員が磨き残しが無い様、仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有るか検討を行っている。快適な排泄が可能のように、日々の観察に努め、必要な対応が統一した形で提供できるよう支援している。	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有りそうか、検討を行ない、研鑽しています。極力トイレで用を足せる様、各々のインターバルを見ながら、声を掛けてトイレに誘導し、その情報の共有に努めています。声かけは、インターバルの他、外出前、食事前後も気をつけて配慮し、本人のサインを見逃さないよう誘導するように心がけています。便秘については自然の排泄を促すよう牛乳等の食品や体を動かす（お風呂、風船バレー、横浜市DVD浜ちゃん体操等）等で対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヤクルトやヨーグルトを提供するなどしたり、日々、散歩やアクティビティーを兼ねた運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	頻度、時間等の業務の都合にとらわれないよう、個々の方の意向を尊重しながら、気持ち良く入浴が出来る様援助している。	入浴は2日に1回の頻度を原則としています。曜日や時間による入浴は行なっていません。一人ひとりのタイミングや希望を取り入れて、気持ちよく入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。入浴は好きな方が多く、午前中を好む人が多いです。嫌がる人には時間を開けて声を掛けたり、それでも駄目なら翌日など柔軟に対応しています。しょうぶ湯、ゆず湯も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、各々の方の習慣や日中の活動状況を踏まえながら、快適な睡眠や休息が取れる様、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリングし、その内容については全員で共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の方の生活歴、残存能力を見極めた上で、役割に繋がられる場面をコーディネートしたり、張り合いや喜びを感じて頂けるような援助に努めている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	出来る限りご本人の意向やご家族の意向に添い、買い物や外食等に出掛けられる様支援し、内容によってはご家族に協力を頂くなどして実現出来る様にしている。	近隣は自然豊かな高台で、見晴らしも良く、お散歩は日々行っています。又、地域の行事や交流場所への外出も積極的に行っています。お墓参り等、遠出となる場合はご家族と相談し、可能な限り支援に努めています。同じ法人のグループホーム同士の交流で、他のグループホームに遊びに行ったり、芋掘りに行ったり、さくら苑の催し物に行ったり、外食に出たりしています。個別対応の一環として、出不精な人は、落ち着いた時を見計らって外に出るよう支援しています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ、買い物時のお支払いをお願いしたり、自己保管して頂いている。外出時など、自ら選び購入する喜びなどお金を使う楽しみを味わって頂ける様配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と年賀状や葉書のやり取りを行える様、電話で近況を伝えることの出来る様、随時コーディネートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各空間の環境面にも着目し、快適に過ごして頂けるよう、空調や照明、TV等の音の具合を調整したり、季節に応じた花や写真を展示するなど、各空間の環境面に配慮している。	リビングのインテリアはさり気なく、自然にをコンセプトに、生花は絶やさず、利用者や来訪者に季節を感じて頂き、ホッと出来る環境作りに配慮しています。また、不快と感じる音や光温度設定等にも常に配慮し、絵や写真などを掲示し、居心地良く過ごせるよう工夫をしています。カラーバードを月1回第3日曜日に実施しています。ぬり絵のようなものですが、基本は色を中心として先生と話し、暖かい雰囲気を持つこと、色の傾向で気分の判断が出来ることなどが目的として行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、ソファや椅子を共同空間に複数配置したり、時には、そのような関係が構築できる様、援助している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品に囲まれることで得られる安心感や居心地に繋がれるよう、ご本人やご家族に相談しお持ち頂くなどしている。	個々にこれまで馴染みのある家具類を各々持ち込んで頂き、本人にとって居心地良く過ごして頂けるよう、安心・安全・快適な居室作りのお手伝いを心掛け、空間演出にも配慮し、工夫に努めています。介護用ベッドが法人より無償で提供されています。個室9カ所の内、2カ所が和室になっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の方の出来る事、わかる事を見極めた上で、それらが日々実現出来る様、安全面にも気を配り、自立に向けた生活が可能ないように環境面の援助も行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

樹林の風

作成日

平成25年12月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災面の対応強化（引き続き、右記内容の継続をしていく）	有事に備えた避難訓練、啓蒙を定期的に行う	消防署の指導の下、具体的な計画を策定し、定期的避難訓練を実施していく（夜間想定避難訓練は引き続き近隣のお宅に参加して頂けるよう依頼していく）	年度/4回
2	13	新入職員に対する教育（引き続き左記に挙げたきめの細かい指導を行いレベルアップしていく。）	介護業務に関わる上での基本的な知識や技術を一定期間に見に付けるための支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内外の研修に出席して頂く機会を設ける。 ・業務の進捗度を把握するためのマニュアルを活用していく ・業務の把握度を双方確認し、その後の目標を立てるための面談を行う 	半年～1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。